

2024年12月2日(月) 晴

昨日に続いて晴天、気温は18℃前後まで上がるらしい。紅葉はようやく見頃、御堂筋の銀杏はどうだろう。オービックビルの街角ピアノ、今日は開いているようだから、お昼に買い物がてら散歩しよう。

— 覚りの更新 —

同じことに、しばらく時間が経って、新しい認識が芽生える。そういうことがなんとなくある。そのたびに、年をかさねる意味、意義を感じる。年をとるって、ほんとうに、おもしろい。

朝は静寂につとめる。音楽も何も自分からはセッティングしない。出かける準備をしながら、自然に思考がめげる。何がきっかけでそのことを思い出すのか、着想するのか、不思議。

歯を磨いている間、化粧水を両手でゆっくり、何度も顔にのせている間は、同じ動作を繰り返すからか、一つのことを少し掘りさげて考える。たぶん手を動かしているのもいい。触覚がそこにうまく融合する。

昨日日曜の朝、“まだわかってなかった…?”。『自業のすすめ』(2016年4月)をまとめた時の覚りは、まだ浅かったのではないか。そんな風な想いがわいた。その覚りとは、ひとに「見つけてもらった」。自分なりの仕事の概念を実践できているのは、そのおかげ。

この「見つけてもらった」の認識は、個人的には大きな気づきであった。見つけてくれた上に、「いい人」である。LYK流定義の2つ目の「人のためになろうとする」。仕事関係で、それを授かる。なんとしあわせなことか。だから『自業のすすめ』の終章でも、「恩人に報いる」をいれ、レイトワークの柱と考えている。

そのことの意味を昨日朝、さらに深く感じた。世界をひろげて想像して、これまで以上に希少なものに想えた。大げさにいえば、自分の世界観がまた少し更新された。よかった…。これからもこういう更新が時々ある、たぶん。たのしい、たのしみ。

2024年12月3日(火)

上本町の一画、この季節のツワブキ、見つけ



2024年12月4日(水) 晴

今日も朝からよく晴れている。気温は昨日より4℃ほど下がり15℃前後の予報、それでも風がないから寒さは堪えない。御堂筋の銀杏もようやく黄葉してきた。買い物かごの散歩は東方向よりだったけど、しばらくは西にしよう。

— どこへ行くのか —

今朝のessaisで話した韓国の「非常戒厳」。続報を読むと、国会の決議にしたがって、一応解除されたい。BBCのサイトには取材写真もたくさん載っていた。けっきょく、劣勢続きの大統領が打った〈苦肉の策〉、一時的なパフォーマンスだったのか。

民主化に軸足をきった1987年から37年、まだ50年経っていない。1987年の日本といえば、バブル経済が佳境に入ろうとするとき。1991年の崩壊を経て、1997年秋の「山一破綻」にはじまり、「銀行が潰れる」経験をして、現在の社会構造へとつながった。

韓国はアメリカよりも競争が激しいという。出生率の低下は日本以上で、今の社会構造のままだと、生んで育てる経済力も気力も持てない、「女性たちは出産ストをしている」と研究者が語っているのを新聞で読んだ。象徴的である。

さて今回の顛末、これからどう展開するか、新たな動きを見せるか、よく見ておこう。ひょっとすると、これは世界の動きとつながった何かかもしれない。そんな気がする。時流を読むためにも、要注視。

2024年12月6日(金) 晴

日の出時間はまだまだ遅くなっているの、同じぐらいの時間に家を出て空は朝を待つ感じ。昨日は曇が多かったけど、今日はよく晴れそう。明日は「大雪」。

— どのようなPAか (3) —

『見える死後との見えない働き』② 口に出すこと(続4)

口に出す。異論もとなえる。こちらはそうでも相手がそうでなければ、たぶん相手は、自分のない面をみて好感するか、逆に嫌悪感を持つか、はたまた同じように口に出すタイプで敵対視するか。

嫌悪感をもつ人は、先方から距離をおくようになるのが常。敵対視する人には、こちらが距離をおくようになる。人間関係でのトラブルがあまり無いのはそのおかげ、そう捉えている。口に出すことは、相手に判断材料を与えることでもあるし、こちらにもまたそう。

口に出す、といっても何でもかんでも、といひでなく、肝心なこと。何を肝心なことと考えるかは人によって違いうだろうから、そこにその人のパーソナリティ、アイデンティティが表れ、それぞれの人物像につながっていくのかもしれない。

利害関係があったとしても、いざという時には、一個の人間どうし、対等という精神が根底に眠っている。平時は立場をわきまえて振舞っている、つもり。でも、事と次第によっては、得たものを無くす覚悟で、正面から対抗する。実際、そういうことがあった。

2024年12月9日(月) 晴

「大雪」を迎え、冬らしい寒さになってきた。それでも10℃を超えているから厚手のロングコートを着るほどでもない。日の入り時間は明日をピークに明後日から反転し、遅くなり始める。冬至も近い。

— 寿命って —

不慮とは、想いだけないこと、意外、不意。仕事の直前に突然、命が絶えるなんて。今では俳優さんのイメージのあるかの女性の訃報、54歳とは…。ときどき紹介している『男と女の生産性』からみて、これから本領発揮のライフステージに入るのに…。

今から20年ほど前、仕事で知り合ったお寺の住職さんに尋ねたことがある。「寿命って、どう決まるんでしょう?」。その場には他にも人がいたから、質問に茶々をいれられて、正面きっての答えは聞けなかった。

仕事で知り合った西陣織の絵師の人が、経済的安定のために介護の世界に入り、地域の包括支援センターで働いていた時に聞いた話が今も印象に残っている。

映画『誰も知らない』のように、一般には知られていない、関心の持たれていない家庭がたくさんあるという。実際の話をいくつか教えてくれた。事故や事件になって初めてわかるような悲惨な状況の家もある。

話を聞くうちに、「そういう状況をたくさんみてきて、感じる、考えることはどういうことでしょうか?」と尋ねたくなった。答えはすぐに返ってきた。「人間、そう簡単には逝かない、ということです」。

どういうことか。「長く、俗にいうゴミ屋敷に住んでいて、健康状態もよくないけど、生きてる、生きてるんですよ」。この言葉が今も耳についている。

不意に逝く、そう簡単には逝かない。その差は何か…、考えるともなく考える。寿命って、なんでしょう。

2024年12月11日(水) 晴・曇

今日も昨日と同じような天気。日向を10分ほど歩くと、マフラーをはずしたくなる。昨日の昼にまた淀屋橋まで買い物がてら歩いた。オービックビルの「ストリートピアノ」はまた誰も弾いていなかった。土曜は弾き手の行列ができるらしいけど。

— どのようなPAか (3) —

『見える仕事の見えない働き』② ロに出すこと(続5)

目にみえる利益を断念する覚悟で取引先に「モノを申す」。その一件は事務所をもって2年も経たない頃であった。内容は4年前の「ひと言ひとり言vol.2」で話した。

自分の気持ちや考えをはっきり伝えることを避ける人が多いようだけど、避けないことで、相手に適切な判断材料を与えて、人間関係のストレスやトラブルを軽減できると過日書いた。

軽減できる以上に、関係が深まる場合も少なくないから、「コミュニケーション」の妙味やいかに。あの一件でとった自分のスタンスと方法は、我ながらよくやったと、後にふり返った。

でもエライのは自分ではないとも気づく。先方の度量のおかげ。こちらのアプローチを、正面から受けとめ、許容し、一件落着に治めてもらった。人によっては「無礼!」と一蹴されたかもしれない。

この一件以降、明らかに先方の見方がかわった。契約満了後もずっと音信は続き、今も続いている。1996、7年の頃からだから、30年近くになる。独立初期のこの一件の学びは大きかった。

今から6年前には、まったくタイプの違う別の「口に出すこと」の大きな一件が仕事先との間であった。これはもっと時間が経ってから話せるなら話そう。それほど貴重で大きな経験であった。

真意、本心、意志を「口に出す」。その行為は厳然として、いたって静か。結果は、未来に前進的で躍動的。「口に出すこと」の意味、意義、イメージを、今のところ、そうとらえる。

仕事柄、「口に出すこと」は仕事である。明確な助言を口にするのは〈見える仕事〉である。しかし、その前後の隙間、あるいは時間差の合間で発することがある。それは〈見えない働き〉といえる。

『微なるかな 微なるかな 無形に至る  
神なるかな 神なるかな 無声に至る』(孫子)

2024年12月16日(月) 晴

早朝、満月の光が西の窓に輝いていた。開けて満月を拝んだ。たぶん金星もよく目立った。ちなみに今年の大晦日は新月。

— 正気 —

日曜の日経トップは「弾劾可決」、極太のヘッドラインだった。前日14日夕方の採決が気になり、報道ニュースをみた。びっくりしたのは、かの大統領が、偏った思想のユーチューバーに傾倒し、「エコーチェンバー現象」に陥っている可能性があるとのこと。党員内でもよく知られたことだそうで、嘆きの声もあがっているとか。

先日仕事で聞いた話にも通じるか。各地の被災地支援を長くやっている人が実際に経験したこと。東北のある地域の支援に入ったとき、すでに支援に入っていたカルトグループに、地元の人々がまるで〈洗脳〉されたようになっていたこと。

リーダー格のお寺の住職さんに至っては、他の支援グループを敵対視するほどになっていて、自分たちの支援活動はほぼできなかつたらしい。ヒトの不幸に乗じて、弱みにつけこんで、人のこころを操ろうとする、必ずそういう人間がいる。その場に自分がいたら、どう振舞えるだろうか。

一人では到底対抗できないだろうし、心理の専門家もふくめたグループで、周到に準備して一定期間の取り組みが必要になる、たぶん。案外、ぱっと、催眠さから覚めた時のように、一瞬で我に返ることもあり得る。人の心の丈夫さ、可能性の雄大さを信じる。

さて、かの大統領はどうか、韓国の情勢はどうなっていくか。

2024年12月17日(火) 晴

今日も朝からよく晴れている。昨日と同じようなお天気。冬の天気安定してきたせいか、よく眠れる。もっと寒くなる時のために寝だめしているのかもしれない。寝る大人も育つ？

— どのようなPAか (3) —

『見える仕事の見えない働き』③ 媒体になること

中之島公会堂には小さな貸会議室がいっぱいある。その一室で韓国語の教室をやっているのを見つけた。1990年春のことである。韓国と交流のある弁護士事務所が主宰していた。

先生は当時の大阪市大に留学していた二人が交代で教えていた。日本文学専攻の人なつこい男性と中国哲学のキリリとした女性。留学をおえて二人が本国へ帰り、教室がなくなるまで通っていた。

女性の先生のある日の教室、テキストと関係してのことだったか、先生の研究活動について話を聞く流れになった。物静かで、日本流にいえば、おしとやかな感じの先生の真面目な研究姿勢がよく伝わった。

知の蓄えが凄いんだろなあと感じた。自然に口をついて出た、「本を書くとか、そういうことはされないんですか？」。

すると表情からしても全くその気がないとわかるほど、首を横にふりながら、「ただ好きでやっているから」。

なんとなくそれ以上立ち入ってはいけないと感じたので、口には出さなかったが、“それでいいのかなあ…”と異存をもった。特定の、それも誰でもが学ぶようなものでない分野の体系的な知、無理強いすることはできないけど、社会的資源でもあり得るわけだから。

前回の「口に出すこと」と同様、面的思考の型がこういった感覚のベースにもなっているのかもしれない。人間が最大の媒体という暗黙の了解は、独立するずっと以前からあった気がする。

2024年12月20日(金) 曇

明日は冬至、「冬至」という奈の梅がある。大阪城公園の梅林に数本ある。早めに梅林を訪ねる、これも年の瀬の個人的〈儀式〉。

— どのようなPAか (3) —

『見える仕事の見えない働き』③ 媒体になること(続)

書籍や講演など、世に出た知だけが知ではない、市井の人々の内にある知もふくめて人類の知なのだ、と「柳田国男」がどこかに書いていた。見逃しがちなことをしっかり押さえてもらった感じがしたのを今もよく憶えている、もう30年ちかく前のことだけど。

大抵の人は、よいことは人に伝えたくるのではないか。社会的な生き物だから本能的にそうなるのだと思う。あとは程度の差。パーソナル・アシスタントという概念で仕事をしようと思すぐらいだから、その程度は平均より高いと今では自己評価する。

仕事とはまったく関係ないけど、仕事先の旧知の人に、あとでわざわざメールしたことがある。相手先で別の人と打合せがあり、その帰りにばったり会った。

先方も急いでいたようなので、簡単に挨拶してお互いわかれたが、これまで見たことのないほどキラキラとした表情があまりに印象的で、これはご本人に伝えなければと感じたのだった。返信には「うれしい!」。

今もそうだけど、ずっと以前から公私をとわず、何か案内をもらって、他の人にもためになりそうなら、自分の周りにアナウンスする。リーズレーターを配信した時からそうしている。

その当時、友人の一人からこんな風に言われたことがある。「自分が行かないのに、なぜ案内するかな」。“私はそういうことはしないけど”という感じで、答えを待つ話しぶりではなかったのでスルーしたが、なぜダメだんだらうと自分の中で反問した。

もちろん行くこともある。先月も陣中見舞いに「きんつば」を持って、もう7年ほど続く催し会場を訪ねた。旧知の主宰者の頑張りに敬服する。孤軍奮闘は続いているが、活動の輪は確実に広がっている。

立ち話に今後の展開への模索を聴く。これに応えて、役に立ちそうな何点かを伝える。こういうちよとした隙間の伝達がのちに意味を持つことは少なくない。そういう認識をもって久しい。

2024年12月23日(月) 晴

北陸、東北には大雪の予報。気象が激しい。他府県のことで最近もいつ自分たちのところもそうなるかわからないという気になる、さすがに大雪はないだろうけど。まずは今週一週間は穏やかな予報。

— どのようなPAか (3) —

『見える仕事の見えない働き』③ 媒体になること(続2)

そもそも自分の人生を大きく変えることになった独立は、他者が口にした素朴な疑問が始まりだった。「どうして転職することはばかり考えるの? なぜ自分でやることを考えないの?」。

大阪YWCAの社会人対象のコースに入り、ニュージーランドのジャーナリストの講師がはなった一言だった。入学動機を尋ねられて、受講者の全員が同じように回答したのだから、いかにも不思議そうに、みんなの顔を見回しながら、言ったのだった。1989年春のことである。

いまほど起業が当たり前でなかった。そんな簡単なことじゃないと皆で反発したが、彼は事もなげに言ったのだった。「簡単さ、電話とファクスとパソコンがあれば、自宅を事務所にいくらでも開業できる、要は、ここだ!」と言って、人差し指を頭にあてた。着想、発想、知恵…。

翌年3月に卒業し、しばらくして外資へ転職したものの、組織に所属するかぎりはどこへ入っても大差ないと感じ始めた時、あの一言がよみがえり、1991年に独立したのだった。

まったくそういう志向はなかったのに、そうなる。些細な一言が他の人生を一篇させることになる。それほどのものだと、自分の経験からもわかった。当時も一つの学びだと感じたが、あとあと、響いてきた大きな学びだった、「パーソナル・アシスタント」にとっては。

仕事では当然として、仕事とは関係ないところで、こちらがその役割を果たすことがある。一番印象的な事例は、知人の診断士に、「話を聞いてもらいに行ったら」と勧められて訪ねて来た男性だった。

知人からは「仕事のこととか、いろいろあるようで、ちょっと話を聞いてあげてください」と頼まれた。聴くぐらいならという感じで応じたが、なぜわたしなのかという気はどこかでしていた。

たっぷり3時間近くは事務所に居たのではないか。これといって決まった相談事があるわけでもないのに、話を聞いて、それに答えて話して、そんな時間であったが、話すだけでもすっきりするもので、帰りには少し晴れた表情だった。

それからどのぐらいたった頃だったろう、お礼のメールが届いた。訪ねた時に教えてもらったある専門分野について、独学し、今は独立して活動するようになったと書いてあった。

ちょっとびっくりした。その事はほんの参考程度にいう感じた話したことだった。ご本人の話を聴いているうちに、合いそうな気がして紹介したまでだった。それが本業になり、追って本を数冊出版するほどになった。

知人は、こういうことを暗に期待して、男性に勧めたのだろうか。

2024年12月25日(水) 晴

今日は冬晴れ、風もなく穏やかな天気。今日のクリスマスがおわれば、一気に迎春ムードへ。

— どのようなPAか (3) —

『見える仕事の見えない働き』③ 媒体になること(続3)

最初に事務所をもったとき、定期的にリーズサロンをやっていた。軽食とワインを用意して自由に語らう。

なぜ始めたか。公私ともに自分の知る人たちが自分とだけ接点があるのはもったいない気がした。多様な人たちがいるのだから、その人たちが交流すれば、おたがいに何かためになることがあるのではないかと。

そのうち、知人が知人を連れてきたりして、愉しんでいた。ただ中には、目的がわからない、なぜこういうことをやるのは理解できないという人もいた。他の目的があって、カムフラージュしているかのように受けとめる人もいた。

これにはちょっと驚かされた。でもしだいに少し〈世間〉をかい間知るようになって、理解できなくはない。居合わせた人と、互いの考え、意見などを交換し、異論も反論もいえば、もちろん共感もする。よほどの安心できる場でないとならないのが普通だと教えてもらった。

「そもそも、自分の考えをもっている人がどれほどいるか」。常連参加の一人がそう言った。どういうこと？ 当時は聞き返した。いまは言わんとすることが何となくわかる。

30年近くも前のリーズサロン、当時の常連みんなもこちらも、すっかりよい年齢だけど、続いている人とは続いている。

2024年12月26日（金）

Giroさんのクリスマスディナー

年末恒例の食事会。先月の『さんま御殿』出演でさらに予約がとれないお店になっていますが、ジローさんは以前とまったく変わりません。世の中に迎合することなく、毒舌もかわらず。

メインのさかなは、今回はアワビ



肉は、エゾ鹿でした



2024年12月27日(金) 晴

今日もよく晴れているが風が強い。気温は11月前後、年末年始にかけては同じようなお天気の予報。いよいよ明日から「奇跡の9連休」。

— 師的に、詩的に、視的に —

セミナーを終えての帰り道、空いた電車に乗って座席にすわったタイミングで車内に駆け込んできたのは受講者の一人だった。目が合ったので手招きすると、寄ってきながら、「わあ、うれしい、先生を独り占めできて!」。

えっ?! ちょっと意表をつかれた感じがした。そんな風に思ってもらう対象なの、わたしって。当の本人は軽い気持ちだったかもしれないが、自分のおかれた立場の新しい側面を知らされた。

“これは、ヘタなことにはできない”、にわかには背すじが伸びた。何か自分に指針を与えようと考えた。それが「師的に、詩的に、詩的に」。

そのココロは、「後輩から頼られ先輩から一目置かれ、自身の言葉で語り人の想いを端的に言葉にでき、全体の印象がよく〈スタイル〉が感じられる」。

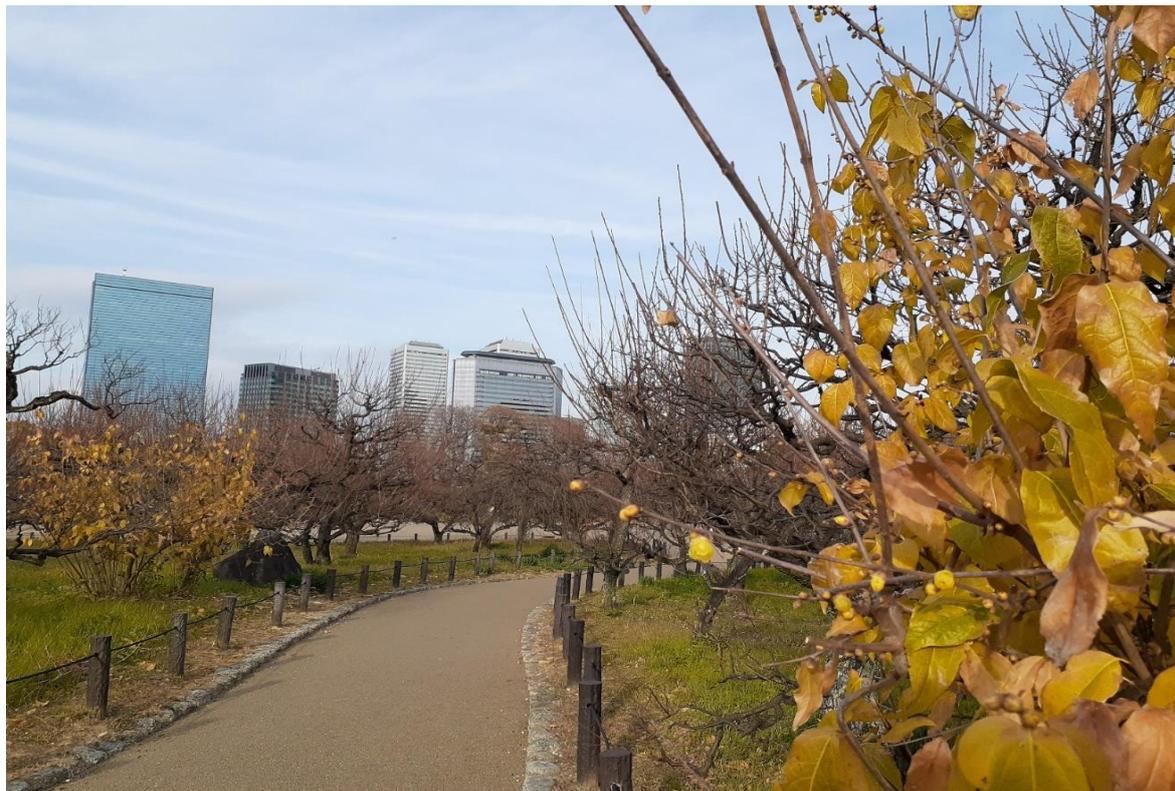
これは2007年のことだった。自分へのこの指針は、その後の『プロ講師になろう塾』で受講者のみなさんへ贈った。リーズレターにも書いた。けっこう汎用性があると思う。

新年も、「師的に、詩的に、視的に」であるよう、努めます。

2024年12月30日（月）

大阪城公園梅林

「冬至」は咲いているか。年末恒例のひと足先の梅見。暖かったわりにはまったく咲いていませんでした。「蠟梅」は咲き始め。



いつもなら水仙がよく咲いているのに、わずかここだけ。ここは老木の「こうてん」のあった場所。

